

(様式)

令和7年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

上尾市立西中学校

1 育成する能力

- ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度 (出典：国立教育政策研究所『学校における持続可能な開発のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]2012年3月』)

2 研究概要

(1) 取り組むSDGsの目標



(2) 研究主題

未来に夢をもち、持続可能な社会をつくる生徒の育成
～ESDの資質能力の育成に向けた中学校カリキュラムの充実～

(3) 研究仮説

- ① SDGsの視点から中学校カリキュラムを見直すことで、生徒が将来について主体的に考え、多様な他者と協働できる力を備えた持続可能な社会の担い手になることができる。
② 外部の団体と連携を図ることで、社会で起きていることを自分のこととして捉えることができ、一人一人の行動計画を考え・実践することで将来につながる資質を養うことができる。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働した企業・団体

- ① 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
② 株式会社パイロットコーポレーション
③ 上尾市中学校給食共同調理場
④ あげお自然学習館・NPO法人ナチュラル・リング・トラスト
⑤ こども食堂とまと

(2) 連携・協働した主な内容

- ・各グループで取組の初めに、「現状と課題」についてご講義をいただいた。
- ・講義を受けて生徒が行動計画(アクションプラン)を考え、中間発表会で企業・団体の方に発表し、助言や感想をいただいた。助言を基にアクションプランの再考を行った。
- ・アクションプランの実践後、「成果と課題」についてまとめ、最終発表会で企業・団体の方に発表し、感想をいただいた。

4 研究内容

(1) 研究組織

- ① 授業研究部 … カリキュラムの見直し、授業計画の作成、ワークシートの作成、外部団体・企業との連絡調整
- ② 教育環境部 … 探求的な学習における成果物作成方法の検討、校内掲示SDGsコーナーの作成、SDGs図書の紹介
- ③ 調査分析部 … 事前事後アンケートの内容検討作成、アンケート結果の分析、活動の様子の記録・傾向の分析

(2) 研究の流れ

対象	内容
研究推進委員会	週1回実施 年間指導計画の見直し、外部企業・団体との連絡調整、教材研究など
校内研修	年間5回実施 年間指導計画の見直し、教科別関連一覧表の作成、教材研究など
1学年	「知る」をテーマに、学年職員が1人ずつSDGs17目標に関連する講義を行う。その後、個人で調べ学習を行い、自身の考えをまとめ、発表する。
2学年	「調べる」をテーマに、班ごとに課題を設定し、調べ学習を行い、内容をGoogleスライドにまとめる。校外学習の際に、班で設定したテーマに合う施設を訪問し、SDGsに関連した学習を深める。
3学年	「実践する」をテーマに、「現代社会のためにできること」という題材でSDGsに関連する課題を見つけ、調べ学習を行い、アクションプランを決定する。アクションプランを企業・団体に提案し、助言をいただく。実践後に「成果と課題」をまとめ、発表会を行い、関連する企業・団体の方に評価していただく。

(3) 取組

① 授業研究部

・年間指導計画の見直し

教科・領域の年間指導計画を見直し、SDGs17目標との関連について「教科別関連一覧表」を作成した。教科横断的に確認をすることで、教育活動全体で世界や日本、社会とのつながりについて指導することができた。総合的な学習の時間では、3年間を見通し「知る」「調べる」「実践する」のテーマのもと「課題設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究活動の流れを実施することで、自ら考え、実践する力を育成することができた。

・外部団体・企業との連携

3年次では、外部団体・企業と連携し、企業の取組など直接話を聞き、アクションプランへの助言をいただいた。

② 教育環境部

SDGsの17の目標や、1・2・3学年のSDGs学習の取組のまとめ、特別支援学級が作成したSDGsカルタなどを掲示する「SDGsストリート」を設置した。取組の課題や感想を共有し、今後の取組に活かすための情報交換の場となっている。



③ 調査分析部

年度の初めと終わりに、全校生徒を対象にアンケート調査を行った。アンケート結果をもとに、17のゴールの中で生徒が興味関心のある項目を把握して授業を計画した。また、ESDの観点に立った学習指導で重視する能力・態度について自己評価させることで、探究学習の視点を示すことができた。

5 成果と課題

○ 児童生徒の声や変容

- ・全国学力学習状況調査質問紙「【4】-25 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の項目で、「思う」「やや思う」と肯定的な回答をした割合は、令和5年度では66%だったが、令和7年度では77%まで増加した。また、「【6】-30 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目では、肯定的な回答をした割合は、令和5年度は82%に対し、令和7年度は89%と高い水準で増加がみられた。カリキュラムの見直しを図ることで、「探求学習における生徒の姿」に準じた授業を計画した結果があらわれていると考えられる。
- ・3学年では、SDGsに関連する学習について「自分で課題を設定することがあった」と答えた生徒が令和6年度12%だったのに対し、令和7年度は33%まで上昇した。生徒自身が解決策を考える力を養うことができる探究活動の流れを意識した指導ができた。
- ・2学年では、ESDの学習指導で重視する能力・態度のうち「未来像を予測して計画を立てる力」について「ない」「あまりない」と回答した生徒が約40%いたことから、計画を立てる際に達成した姿を想像しながら計画を立てることを重点項目として指導に取り組んだ。
- ・1学年では、全体的に「エネルギーや経済成長」「技術革新」に対する興味関心が低いことが分かった。そこで、今年度の「知る」を目的とした教師の授業でその分野を扱うことで、生徒の興味関心の幅を広げるよう指導に取り組んだ。

○ 学校全体の変容や先生方の声

・年間指導計画の見直し

教科・領域部会で年間指導計画の見直しを行い、SDGsとのつながりを考えることで、教科横断的に指導ができるようになった。また、総合的な学習の時間の見直しを行い、本校におけるSDGsに関連する授業内容の精査を行った。

・総合的な学習の時間の見直し

1年次「知る」、2年次「調べる」、3年次「実践する」のテーマのもと、総合的な学習の時間の見直しを行った。1年次には、学年教員が1人1つのSDGs17目標を担当し、関連する講義を行った。その後、生徒が興味関心の高い課題を設定し、ICT端末を活用して調べ学習を行い、まとめ・発表を行った。2年次には、東京校外学習の取組の中でSDGsに関連する企業の調べ学習を行い、校外学習の中で企業訪問を行った。その後、校外学習のまとめの中でSDGsに関連するまとめを行い、発表した。

○ 連携した企業・団体の声

- ・どのクラスも生き生きと取り組んでいるように見受けられました。自分でできる行動計画を考える活動を通して、グループで協力し、調査・発表と、中学生はここまで出来るんだなと感じました。SDGs持続可能な視点、大人が考えるとつまらない答えしか出てこないところ、中学生ならではの発想、アイデアがとても興味深かったです。また、ただの授業1コマで終わらず、今後の自分の行動や生活につなげて社会貢献にもつながりそうところが本当に素晴らしいと思いました。
- ・企業と連携をとることで生徒が考えた取組がより良いものになると思いました。企業という専門家に褒められることで、取組や考えたことに自信を持って行えると思いました。企業側も生徒からの新たな視点を得ていたのも、企業・生徒どちらにもメリットがあると思います。

○ 今後の課題

- ・ 探究的な活動の実施に向けて、教職員にはファシリテーターとしての役割が求められる。校内研修等を通じて、教職員の研修を継続して実施していく必要がある。
- ・ 外部団体・企業との連携を図るための連絡、調整に課題がみられた。年度ごとの連携ではなく、継続した連携を図ることができる環境をつくっていきたい。